

29A 数理科学総合セミナーⅡ (29S 社会数理先端科学Ⅰ)

講師 (客員教授) : 中川淳一 (新日本製鐵住金株式会社)

集中講義形式 :

1月17日(水) 14:55-16:40 4限 128 演習室 導入

1月24日(水) 終日 新日鐵住金(株)君津製鐵所工場見学、研究所での議論
(東大数理科学・新日鐵住金の交流会を兼ねる)

1月25日以降に約2日間の集中講義を設定(日程は1月17日に決定します。)

講義題目 : 数学・数理科学と諸科学・産業との連携に必要なコミュニケーション力を身につけるために

シラバス :

数学の裾野(数学と諸科学・工学・産業・社会との関わり)を広げることが目的に、自分の専門領域以外の人とのコミュニケーションの仕方を、議論主体の講義を通じ学んでいただきます。ここでの「自分の専門領域以外」とは、講師の所属する企業の研究領域だけでなく、数学内部の多岐に亘る研究領域を含みます。

講義の進め方は、以下のとおりです。

- 1) 1月17日に、ご自身の研究課題を、出席者全員の前で10分程度の時間で判り易く説明いただいた後、出席者全員が議論に参加し、質疑応答の過程を通し、できるだけ平易な言葉で自分の考えを相手に伝え共感を得るためのコミュニケーション力を身につけていただきます。また、質疑応答時の自主性、質問の仕方(相手の感情を動かす、敵をつくらない、相手の共感を得る、等)も評価対象にします。
- 2) 数学と製造現場の関わりを体験いただくために、新日本製鐵株式会社君津製鐵所の工場見学を1月24日に企画しますのでご参加ください。
- 3) 1月25日以降の講義で、数学と実社会の諸問題の関わりに焦点をあて、講師が提供するいくつかの議題について双方向で議論するという形式で授業を進め、チーム研究の進め方を学んでいただきます。講義終了後に、自分の専門とする数学と実社会の関わりについて、1ページ程度のレポートを提出していただきます。